

八ヶ岳山荘のあり方及び自然教室の方向性について（中間報告）

令和7年12月25日
第24回教育委員会定例会資料
教育部生涯学習推進センター

事業概要

【目的】老朽化の進む八ヶ岳山荘のあり方について、今後の方針を示す。

【主な内容】八ヶ岳山荘は、自然教室の代替施設での実施を前提に、令和8年度をもって休止または廃止の検討を進める。

1. 検討状況

【あり方検討の方向性】

八ヶ岳山荘の施設の維持管理、利用状況等の現状を分析し、施設の今後のあり方を検討する。

【八ヶ岳山荘のあり方の検討委員会の開催概要】

<第1回>（令和7年9月26日）

- ・八ヶ岳山荘の現状について
- ・継続または廃止の場合の今後の経費試算
- ・廃止をした場合の影響について

<第2回>（令和7年10月9日）

- ・方向性(案)について検討

<第3回（予定）>（令和8年1月9日）

- ・あり方の結論

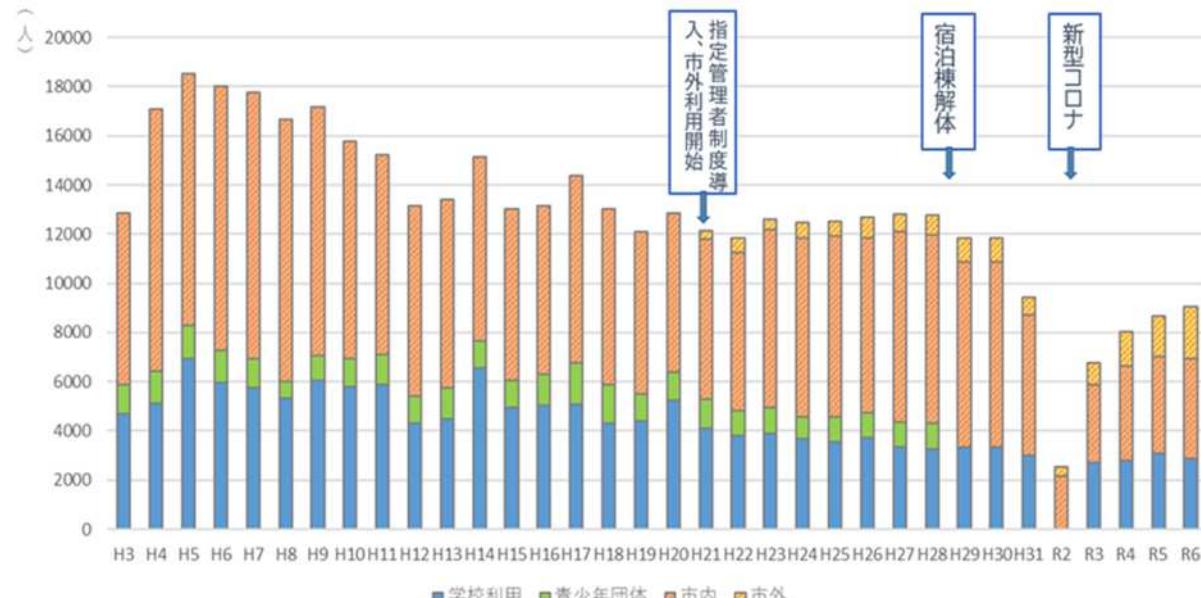
2. 八ヶ岳山荘の現状について

（1）利用状況

八ヶ岳山荘は、昭和40年度の中学校林間学校から始まり、60年にわたり立川市の校外教育の場として機能してきた。平成3年度に本館が完成してからは、小学校の自然教室も始まり、子どもたちの成長に大きく寄与してきたと言える。

一方で、学校利用を除く一般利用については、年間1万人を超えていた時期もあったが、近年の利用は6千人（うち市民利用が4千人）程度に留まっている。

図表1：年間宿泊者数の推移



(2) 他自治体・周辺の状況について

自然教室等について、多摩26市中、市が所有する施設で宿泊を行っている団体は6団体である。八ヶ岳学校寮地区について、自治体の施設は平成23年度の7施設から、令和7年度には4施設まで減少している。

(3) 財政面について

管理運営にかかる経費も人件費水準の上昇や物価高騰により年々増加しており、令和6年度実績においては年間6,500万円程度の状況となっている。

市民の利用が減少する中で市外利用者は増加しているが、利用者1人あたりに平均して7,000円を超える市の負担が発生しており、結果として市外利用者に対して多くの公費を負担している状況にある。

(4) 施設の老朽化の状況

施設・設備の状況を見ると、築30年以上となった本館については老朽化が目立っており、配管の破損など急な設備の故障が頻発するようになっている。平成24年度の劣化度調査で令和6年度～10年度に大規模修繕が必要とされており、平成31年度に一部設備と防水などの表面的な改修を行ってはいるが、大規模修繕にあたる工事は行っていない。

現在の指定管理者の指定管理期間は令和8年度末で終了予定ではあるが、仮に引き継ぎ施設を存続していく場合には、大きな施設・設備の故障に伴う突然の休業を避けるために、次期の指定管理期間の開始前までに大規模な修繕や改修工事が必須となる。また、寒冷地かつ遠方での作業となるため、昨今の人手不足の状況から入札不調のリスクや工期の長期化等も想定される。

図表2：管理運営経費及び工事等経費

単位：(円)

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
管理運営経費	58,936,676	60,568,076	55,977,676	55,315,664	58,014,664	63,215,719	61,217,872	57,871,869	61,129,664	64,957,754
工事等経費	0	39,720,240	2,084,400	16,956,000	232,287,000	0	0	0	35,595,862	0

※管理運営経費は決算額から工事等経費を除いた額で、指定管理料・土地借上料等。

図表3：利用者1人あたりのコスト

単位：(円)

一人あたり	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
市負担額	4,600	4,749	4,731	4,667	6,159	24,703	9,052	7,195	7,039	7,191

※市負担額＝管理運営経費／利用者数

※1円未満四捨五入

3. 自然教室について

(1) 自然教室の経費について

- | | |
|---------|---|
| 現行 | 現行の八ヶ岳自然教室（2泊3日） |
| A案（代替①） | 自然教室を民間施設で実施した場合（2泊3日）（小6の日光移動教室を参考に積算） |
| B案（代替②） | 自然教室を民間施設で実施した場合（1泊2日）（「A案」の1/2で積算） |

図表4：経費比較表

(円)

(円)

		バス借上げ料	宿泊費（宿泊費相当）	食事代	その他体験等
現行	市負担	19,899,000	(注1) 21,534,800		
	保護者負担			9,982,000	9,422,000
A案	市負担	19,899,000	26,490,800		
	保護者負担			9,982,000	9,422,000
B案	市負担	19,899,000	13,245,400		
	保護者負担			5,488,000	4,711,000

(参考) 令和6年度管理運営経費
64,957,754

(注1)：現行の宿泊費（宿泊費相当額）は、「一般利用額（小学生1泊500円）×2日×1,400人」分と「一泊一人当たり市負担コスト（令和6年度7,191円）×2日×1,400人」分で積算。管理運営経費に含まれるものとして市が負担している。

〈自然教室の保護者負担について〉

代替施設での実施に当たっては、宿泊費にかかる保護者負担が課題となる。ただし、宿泊費を含めている現在の管理運営経費を財源とすれば、A案・B案のいずれの場合においても全額を補助対象とすることが可能である。

(2) 代替サービスの検討について

立川市八ヶ岳山荘以外での自然教室の実施可能性については、宿泊日数や代替施設を検討するうえで重視したい項目にかかる学校への調査を行った上で、慎重に検討を進めている。

4. 今後の方向性について（案）

八ヶ岳山荘を今後も存続・運営していくことには施設の利用状況や老朽化状況だけでなく、財政面においても大きな課題があることから、現在の主な施設の利用目的である小学5年生の自然教室を代替地で継続実施できる場合には、八ヶ岳山荘は令和8年度をもって休止または廃止する方向で引き続き検討を進めることとしたい。